

百々よみとりおけいこ①（低）

名まえ（

こんにちは。これからみなさんに百々小学校にまつわるいろいろなおはなしをしようかいしていこうとおもいます。このプリントにしっかりととりくんでもらえば、必ず文をよみとる力がつき、また百々ちいき・山科ちいきのことがますます好きになると思います。ぜひ、がんばってとりくみましょう。

まずは、このちいきのおもなさんぎよう、きよみずやきの話からはじめます。

むかしから京とにはよいんねん土を出すところがありました。うら山でも、たくさんのおん土がとれました。みなさんもしっていることでしょうが、ねん土はこねこねしたらいろいろな形が作れます。しかも、それをかわかしちゃいたら「陶器」ができて、うつわとしてじょうぶにつかうことができるのです。むかしのの人にとってこれはすばらしい発明でした。こわれないかぎりくりかえし、つかうことができるのですから。

やがて色つきのやきものもやかれるようになりました。そうして、お茶のどうぐもたくさんやかれるようになりました。野々村仁清や尾形乾山といったすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中ごろになると石の粉からつくる磁器がはやりはじめて奥田頼川・青木木米といった人がかつやくしました。この木米という人と、仁清、乾山の三人を「京焼三名工」という人もいます。

明治時代になると、そのすばらしさはがいこくでもしられ、たくさんのお磁器がゆ出されるようになりました。つぎは山科に清水焼団地ができたことをはなしますね。

おんどくサインー

① 何の話でしょう？

- （ ） たこやき （ ） たいやきのれきし
（ ） きよみずやきのれきし
② 百々小学校だけのこのプリントをなんといいますか？

- （ ）
③ このプリントにしっかりととりくめばどんないいことがあるか二つまとめましょう。

- （ ） 力がつく。
（ ） がすきになる。

- ④ 陶器でたくさんつくられるのはつぎのうちどれですか？ （ ） そうじのどうぐ
（ ） ぶんぼうぐ （ ） お茶のどうぐ

- ⑤ 陶器はなにからつくりますか？
（ ） すな （ ） 石 （ ） ねん土

- ⑥ 磁器はなにからつくりますか？
（ ） すな （ ） 石 （ ） ねん土

- ⑦ 陶器と磁器をひっくりかえしてなんといえますか？ ひらがなでかきましょう。
（ ） （ ）

- ⑧ あっているものに○をつけましょう。

- （ ） 江戸時代になるとたくさんの陶磁器がゆ出された。
（ ） ねん土をこねてかわかしたらじょうぶなうつわになる。

- （ ） 江戸時代中ごろには、磁器がはやりはじめた。
⑨ おもったことを五行でまとめましょう。

できればは？



こんにちは。これからみなさんに百々小学校の校区にまつわるいろいろな話をしようかいしていこうとおもいます。このプリントにしっかりとくりくんでもらえば、必ず文をよみとる力がつき、また百々ちいき・山科ちいきのことがますます好きになると思います。ぜひ、がんばってとりくみましょう。

まずは、このちいきのおもなさんぎょう、きよみずやきの話からはじめます。

むかしから京都にはよいんねん土を出すところがありました。東山（山科から見れば西野山）でも、たくさんのおねん土がとれました。みなさんも知っていることでしょうが、ねん土はこねこねしたらいろいろな形が作れます。しかも、それをかわかしてやいたら「陶器」ができて、うつわとして清潔に、丈夫に使うことができるのです。古代人にとってこれはすばらしい発明でした。こわれないかぎりくりかえし、つかうことができるのですから。

中世には色つきのやきものもやかれるようになりました。そうして、江戸時代にかけてはお茶のどうぐもたくさんやかれるようになりました。野々村仁清や尾形乾山といったすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中期になると石の粉を原料とする磁器がはやりはじめて奥田頼川・青木木米といった作家がかつやくしました。この木米という人と、仁清、乾山の三人を「京焼三名工」という人もいます。

明治時代になると、京焼のすばらしさは海外でも有名になり、たくさんのおうじきがゆ出されるようになりました。次回は山科に清水焼団地ができたことを話しますね。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（ ） たこやき （ ） 清水焼のお客さん

（ ） 清水焼のれきし （ ） 清水寺のれきし

② 百々小学校だけのこのプリントをなんといいますか？

（ ）

③ このプリントにしっかりと取り組めばどんないいことがあるか二つ書きましょう。

（ ）

（ ）

④ 東山という言い方はどこから見た言い方ですか？

（ ） 山科 （ ） 京都ぼんち （ ） しがけん

⑤ 陶器はなにからつくりますか？

（ ）

⑥ 磁器はなにからつくりますか？

（ ）

⑦ 陶磁器とは何と何をたし算したことばですか？

（ ） + （ ）

⑧ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 江戸時代になるとたくさんのお陶磁器がゆ出された。

（ ） 粘土をこねてかわかしたら丈夫なうつわになる。

（ ） 江戸時代中期になると磁器がはやりはじめた。

⑨ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？



こんにちは。これからみなさんに百々小学校の校区にまつわるいろいろな話を紹介していこうと思います。このプリントにしっかりと取り組んでもらえば、必ず読解力がつき、また百々地域・山科地域のことがますます好きになると思います。ぜひ、がんばって取り組みましょう。

まずは、この地の主要産業、清水焼の話からはじめます。昔から京都盆地には良い粘土を出すところがありました。東山一帯（山科盆地から見れば西野山一帯）でも、たくさんの粘土がとれました。みなさんも知っていることでしょうが、粘土はこねこねしたらいろいろな形が作れます。しかも、それを乾かして焼いたら「焼き物」ができて、食器として清潔に、丈夫に使うことができます。古代人にとってこれは素晴らしい発明でした。こわれない限りくり返し、使うことができるのですから。

古墳時代、京都でもたくさん須恵器が焼かれました。平安時代には、釉うわぐすりも使われるようになりました。

室町時代には色絵陶器が焼かれるようになりました。そうして、江戸時代にかけてはお茶の影響で茶陶もたくさん焼かれるようになりました。野々村仁清ののむらにんせいや尾形乾山おがたけんざんといったすばらしい作家が生まれました。

江戸時代中期になると石の粉を原料とする磁器じきが流行し始めて奥田頼川おくだえいせん・青木木米もくべいといった作家が活躍しました。この木米という人と、仁清、乾山の三人を「京焼三名工」という人もいます。

明治時代になると、京焼のすばらしさは海外でも有名になり、たくさんのお磁器が輸出されるようになりました。今回は山科に清水焼団地ができたことを話しますね。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

（ ） たこ焼き （ ） 清水焼のお客さん

（ ） 清水焼の歴史 （ ） 清水寺の歴史

② 文に何が書かれているか理解する力のことを三文字でなんとか抜き出しましょう。

（ ）
③ このプリントにしっかりと取り組みればどんないいことがあるか二つ書きましょう。

（ ）
④ 東山という言い方はどこから見た言い方ですか？

（ ） 山科盆地 （ ） 京都盆地 （ ） 大津

⑤ 焼き物の原料はなんですか？

⑥ 磁器の原料はなんですか？

⑦ 陶磁器とは何と何を足し算した言葉ですか？

⑧ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 江戸時代になるとたくさんのお磁器が輸出された。

（ ） 粘土をこねて乾かしたら丈夫なうつわになる。

（ ） 古墳時代、たくさんのお磁器が焼かれた。

⑨ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

